

43. 佐賀平野における地域住民のクリーク景観の捉え方に関する研究

氏名 林博徳

1. 背景および目的

近年、自然再生推進法や景観法が施行され、地域独特の景観や環境の保全が重要なことと位置付けられ、その地域にふさわしい環境整備の方法が模索されている。一方で、その環境整備のための基礎的知見として、その地域にすむ人々の思い出に残っている風景（心象風景）を把握することが重要であると考えられている。本研究で対象地とした佐賀平野においても、都市化や圃場整備に伴いクリーク（佐賀独特の農村景観をかたちづけている農業用水路）の環境整備が行われているが、その地域にふさわしい整備を行うにあたり、地域住民の心象風景を把握することが求められている。また、クリークは戦後めまぐるしい速さでその姿を変えつつあり、その風景に対する世代間の認識も異なっていると考えられる。以上のような背景をうけ、本研究では、地域住民のクリーク景観の捉え方を調査すること、およびクリーク景観の心象風景の世代差について検証し、その理由を考察することを目的とする。

2. 研究内容

2-1. 研究の進め方

佐賀市在住の地域住民のクリーク景観の捉え方および心象風景を知るために本研究ではアンケート調査を行った。アンケートは、あらかじめ様々な種類の写真を撮っておき、それらを掲載したアンケート用紙を地域住民に提示し、提示された写真の中から質問に沿った写真を選定してもらうという形式をとった。さらに選定した理由を文章で記述してもらうことにより、より明確に被験者の意図を読み取れるよう配慮した。

2-2. 研究方法

①アンケートの概要

具体的なアンケート方法は、佐賀市在住の地域住民を対象として、佐賀平野のクリークの写真 23 枚を載せた A2 大の用紙を配布し、その写真に対する質問について回答を記述してもらうという形式をとった。

②被験者の選定

本研究では、佐賀市在住の地域住民のクリーク景観に対する捉え方、および世代間での心象風景の違いを検証し考察することを目的としている。そこで被験者として、佐賀市在住の地域住民を被験者とし、世代間の違いを見るために小学生・働く世代・高齢者の三世代について調査をおこなった。小学生世代の被験者は、空間把握能力がある程度身につけていて、心象風景成立する時期と考えられる小学 6 年生を対象とした。なお小学校区周辺で様々な種類のクリークが見られる場所に立地し、小学生のクリークに対する認知度が高いと思われる兵庫小学校にアンケートの協力を依頼した。働く世代の被験者は、被験者数を一度に多く集めることができ、職業によるデータのばらつきを抑えられるよう佐賀市役所職員（以下市役所と呼ぶ）を対象とした。高齢者世代は、小学生と同様様々な種類のクリークが見られる場所である兵庫地区に在住の方を対象とし、兵庫地区の公民館で行われる長生会（高齢者の集会）でアンケートの協力を依頼した。アンケートの被験者数は小学生 101 名（男子 54 名、女子 47 名）、市役所 124 名（男性 68 名、女性 56 名）、高齢者 58 名（男性 23 名、女性 34 名）の計 283 名に依頼し、いずれの世代においても、男女比に大きな差が発生するのを防ぐため、男女の被験者数をほぼ同数とした。

③アンケートで用いた写真の選定

アンケートで用いた写真は、佐賀平野に見られる様々なクリークの写真を撮影し、クリーク景観の主な構成要素であると考えられる護岸形状（土羽護岸/コンクリート護岸/石積み護岸）・周辺の土地利用（田んぼ/民家/車道駐車場）・水路線形（蛇行/直線）・河畔林の有無（近景にあるもの/遠景にあるもの/無いもの）によって分類し、23 枚を選定した。

分類	具体的な景観要素		
護岸形状	土羽護岸	コンクリート護岸	石積み護岸
周辺の土地利用	田んぼ	民家	車道・駐車場
水路線形	蛇行	直線	
河畔林	あり(近景)	あり(遠景)	なし

上記の分類に従って写真を分類した場合、単純計算すると 54 種類の写真が選定されることになるが、佐賀平野に見られなかったものや護岸整備の背景上理屈的にありえないもの（蛇行するコンクリート護岸で周辺の土地利用が田んぼであるものなど）を除いた結果 23 枚の写真に分類できた。なお、以上の分類は筆者の仮定によるものであるため、後にこの分類の妥当性について考察することとする。

④質問項目の設定

本研究では、地域住民のクリークの心象風景を明らかにすることと世代間でのクリーク景観の捉え方の違いを明らかにすることを目的としている。そこで、地域住民の心象風景を捉えるために、被験者に提示した 23 枚の写真の中から「思い出に残っている風景に近い写真を選んでください」という質問をした。また、より被験者の意図を正確に汲み取るためにその理由を文章で記入してもらった。世代間のクリーク景観の捉え方の違いを明らかにするために、一つの風景を評価する尺度として「美しい」という言葉を用いることとし、「美しいと感じる風景の写真を選んでください」「美しく感じないと感じる風景の写真を選んでください」という 2 つの質問をした。さらに、思い出に残っている風景と同様に、写真を選んだ理由を文章で記入してもらった。それに加えてここでは、さらに詳しく具体的な景観要素についての考察を加えるために「写真上に最も着目した部分を○で囲んでください」というお願いをした。「美しい」という形容詞は、個々の景観要素に対してもかかることができるものがあるため、景観要素に対する回答を得やすいと考えたこともこの形容詞を評価の尺度としてアンケートの質問項目に採用した理由の一つである。

3. 調査結果および考察

3-1. 美しいと感じる風景

①全体の傾向

美しいと感じる風景を選ぶ際に最も着目した点に河畔林(近景)をあげた回答が最も多く(全体 29.6%、高齢者 33.3%、市役所 24.6%、小学生 34.8%)、

河畔林にどの世代も強く着目しているという傾向が得られた。

また、美しい風景に選ばれた写真のうち 92.9% に河畔林が写っているものであった。このことから河畔林がクリークの風景を評価する際に非常に重要な要素であることがわかる。

②高齢者世代の特徴

全体の傾向同様、着目点に河畔林(近景)をあげた回答が最も多く 33.3%見うけられた。

③市役所世代の特徴

比較的多岐にわたる種類の景観要素に着目しており、他の世代に比べ着目点の偏りが少ないという結果が得られた。

④小学生世代の特徴

河畔林(34.8%)、水面(33.9%)、土羽護岸(13.7%)の三点が着目点として挙げられた景観要素のうち 82.4%を占めており、着目する景観要素が他の世代に比べて非常に偏っている。

3-2. 美しく感じないと感じる風景

①全体の傾向

コンクリート護岸が、美しく感じないと感じる着目点として最も多く挙げられている(26.6%)。さらに、水面 22.1%、土羽 12.6%、護岸水草 11.4%とつづいている。美しいと感じる風景の着目点と違って、クリークに直接的に関係している景観要素が美しく感じないと感じる風景の着目点には挙げられる傾向が見られた。

	直接	間接
美しいと感じる風景	50.7%	49.3%
美しく感じないと感じる風景	74.4%	25.6%

②高齢者世代の特徴

コンクリート護岸が、美しく感じないと感じる着目点として最も多く挙げられている(36.5%)。土羽護岸が次に多く挙げられている(18.3%)。その理由には、維持管理の大変さを挙げているものが多い。

③市役所世代の特徴

高齢者と同様にコンクリート護岸(34.5%)を美しく感じないと感じる着目点として最も多く挙げ、土羽護岸(14.5%)次に多く挙げている。

④小学生世代の特徴

美しく感じないと感じる風景の着目点として、水面と

水草を挙げている割合が他の世代と比べて非常に多い。この結果から、他の世代と比べて非常に水に対する関心が強い事がわかる。

着目点	高齢者	市役所	小学生
水面	8.7%	14.2%	39.8%
水草	6.7%	6.5%	20.4%
計	15.4%	20.7%	60.2%

また、コンクリート護岸に対して、他の世代に比べて注目度が非常に低いという特徴が見られた。

着目点	高齢者	市役所	小学生
コンクリート護岸	36.5%	34.5%	10.4%

3-3. 思い出に残っている風景

①思い出に残っている風景の傾向

アンケートの集計結果より、世代間の思い出に残っている風景が明らかに異なっていることがわかった。それぞれの世代の傾向を示す代表的な写真を図1に示す。それぞれの世代ごとに風景の特徴を見てみると、小学生世代ではコンクリートで護岸を固めたものが多く選ばれており、クリーク周辺の土地利用は車道や駐車場のものが多い。市役所世代では石積みの護岸のものが他の世代に比べて多く選ばれているのが特徴である。石積み護岸以外には土羽護岸で周辺の土地利用が田んぼであるものが選ばれている。高齢者世代では、護岸形状が土羽護岸であるものに非常に多く票が集まっている。また、周辺の土地利用は田んぼと民家であるものにほぼ同数票が集まっている。なお、どの世代にも水路線形と河畔林の有無による特徴は見られなかった。

②思い出に残っている風景とActivityの関わり

思い出に残っている風景を選定した理由には、どの世代の回答にもクリークとその周りの環境を通じたActivityに関するものが数多く見うけられた(表2参照)。集計結果よりそれらのActivityを、クリークとの関係の強さを基準に①クリークに入るActivity、②クリークと関わりのあるActivity、③クリークと関わりのないActivity、の3つに分類した。その結果、①に関して現在の小学生世代は他の二世代と比較して、極端にActivityの種類が少ないということがわかった。

また、①・②・③それぞれに分類されるActivityの和についての比率を世代間で比べると以下のような結果が得られた。表より若い世代ほど①クリークに入るActivityを経験している割合が少ないことがわかる。

	①クリークに入るActivity	②クリークと関わりのあるActivity	③クリークと関わりのないActivity
高齢者	53.1%	46.9%	なし
市役所	27.0%	66.2%	6.8%
小学生	7.1%	49.4%	43.5%

以上の結果から、高齢者世代には多く見られたクリークと密接な関わりをもつ活動について、小学生世代では体験している種類や人数ともに非常に減ってきていることがわかる。思い出に残っている風景の世代間の傾向差と、非常に密接な関わりをもっているのではないだろうか。近年行われた護岸整備によってクリークを通じたActivityができる環境は失われつつあり、それは地域住民の心象風景にも非常に強い影響を及ぼしているということが考えられる。

3-4. 結論

- ① 地域住民はクリークの景観の美しさをいくつかの景観要素に着目して捉えている。
- ② 着目する景観要素のうち河畔林はクリーク景観の美しさを決定する重要な要素である。
- ③ 世代間によってクリークの心象風景は異なっている。
- ④ クリークの心象風景はその場でのActivityと深く関係している。

表1) 着目点集計結果 (ランキング)

美しいと感じる風景 小学生				市役所				高齢者				全員			
順位	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%
1	河畔林(近景)	79	34.8%	河畔林(近景)	76	24.6%	河畔林(近景)	34	33.3%	河畔林(近景)	189	29.8%	河畔林(近景)	189	29.8%
2	水面	77	33.9%	水面	41	13.2%	水際の植栽(土羽護岸)	16	15.7%	水面	128	20.1%	水面	128	20.1%
3	水際の植栽(土羽護岸)	31	13.7%	水際の植栽(土羽護岸)	34	11.0%	水面	10	9.8%	護岸(土羽)=水際の植栽	81	12.7%	護岸(土羽)=水際の植栽	81	12.7%
4	水路橋形(蛇行)	6	2.6%	コンクリート護岸	26	8.4%	コンクリート護岸	9	8.8%	護岸(コンクリート)	39	6.1%	護岸(コンクリート)	39	6.1%
5	河畔林(遠景)	6	2.6%	石積護岸	25	8.1%	水路橋形(直線)	7	6.9%	護岸(石積み)	28	4.4%	護岸(石積み)	28	4.4%
6	周辺の土地利用(田んぼ)	5	2.2%	橋梁	16	5.2%	背景の山	5	4.9%	橋梁	22	3.4%	橋梁	22	3.4%
7	周辺の土地利用(民家)	4	1.8%	全景	15	4.9%	河畔林(遠景)	4	3.9%	全景	21	3.3%	全景	21	3.3%
8	水草	4	1.8%	水草	13	4.2%	周辺の土地利用(民家)	4	3.9%	水路橋形(蛇行)	20	3.1%	水路橋形(蛇行)	20	3.1%
9	全景	4	1.8%	水路橋形(蛇行)	12	3.9%	周辺の土地利用(田んぼ)	3	2.9%	周辺の土地利用(田んぼ)	13	3.0%	周辺の土地利用(田んぼ)	13	3.0%
10	橋梁	4	1.8%	周辺の土地利用(田んぼ)	11	3.6%	周辺の土地利用(散歩道)	2	2.0%	水草	13	2.8%	水草	13	2.8%
11	コンクリート護岸	3	1.3%	周辺の土地利用(民家)	10	3.2%	水路橋形(蛇行)	2	2.0%	周辺の土地利用(民家)	18	2.8%	周辺の土地利用(民家)	18	2.8%
12	石積み護岸	2	0.9%	河畔林(遠景)	6	1.9%	橋梁	2	2.0%	河畔林(遠景)	15	2.4%	河畔林(遠景)	15	2.4%
13	水路橋形(直線)	1	0.4%	水路橋形(直線)	7	2.3%	全景	2	2.0%	水路橋形(直線)	15	2.4%	水路橋形(直線)	15	2.4%
14	コンクリートの側道	1	0.4%	背景の山	8	2.6%	石積護岸	1	1.0%	背景の山	13	2.0%	背景の山	13	2.0%
15				空	3	1.0%	水草	1	1.0%	周辺の土地利用(散歩道)	3	0.5%	周辺の土地利用(散歩道)	3	0.5%
16				転落防止柵	1	0.3%				空	3	0.5%	空	3	0.5%
17				鳥居	1	0.3%				井樋(コンクリート)	2	0.3%	井樋(コンクリート)	2	0.3%
18				井樋(コンクリート)	2	0.6%				転落防止柵	1	0.2%	転落防止柵	1	0.2%
19				ポケットパーク	1	0.3%				鳥居	1	0.2%	鳥居	1	0.2%
20				周辺の土地利用(散歩道)	1	0.3%				ポケットパーク	1	0.2%	ポケットパーク	1	0.2%
21										コンクリートの側道	1	0.2%	コンクリートの側道	1	0.2%
22										周辺の土地利用(車道・駐車場)	0	0.0%	周辺の土地利用(車道・駐車場)	0	0.0%
合計		227	100.0%	合計	309	100.0%	合計	102	100.0%	合計	638	100.0%	合計	638	100.0%

美しくないと感じる風景 小学生				市役所				高齢者				全員			
順位	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%	着目点	票数	%
1	水面	80	39.8%	コンクリート護岸	95	34.5%	コンクリート護岸	38	36.5%	護岸(コンクリート)	154	26.6%	護岸(コンクリート)	154	26.6%
2	水草	41	20.4%	水際の植栽(土羽護岸)	40	14.5%	水際の植栽(土羽護岸)	19	18.3%	水面	128	22.1%	水面	128	22.1%
3	コンクリート護岸	21	10.4%	水面	39	14.2%	水面	9	8.7%	護岸(土羽)=水際の植栽	73	12.6%	護岸(土羽)=水際の植栽	73	12.6%
4	水際の植栽(土羽護岸)	14	7.0%	転落防止柵	34	12.4%	水草	7	6.7%	水草	66	11.4%	水草	66	11.4%
5	周辺の土地利用(車道)	11	5.5%	河畔林(近景)	19	6.9%	周辺の土地利用(民家)	6	5.8%	転落防止柵	41	7.1%	転落防止柵	41	7.1%
6	河畔林(近景)	8	4.0%	水草	18	6.5%	周辺の土地利用(車道)	5	4.8%	河畔林(近景)	31	5.3%	河畔林(近景)	31	5.3%
7	ゴミ	7	3.5%	周辺の土地利用(車道)	10	3.6%	転落防止柵	5	4.8%	周辺の土地利用(車道・駐車場)	26	4.5%	周辺の土地利用(車道・駐車場)	26	4.5%
8	石積護岸	6	3.0%	石積護岸	3	1.1%	石積護岸	4	3.8%	護岸(石積み)	13	2.2%	護岸(石積み)	13	2.2%
9	全景	3	1.5%	排水溝	3	1.1%	河畔林(近景)	4	3.8%	ゴミ	11	1.9%	ゴミ	11	1.9%
10	周辺の土地利用(田んぼ)	3	1.5%	周辺の土地利用(民家)	3	1.1%	ゴミ	2	1.9%	周辺の土地利用(民家)	10	1.7%	周辺の土地利用(民家)	10	1.7%
11	転落防止柵	2	1.0%	周辺の土地利用(田んぼ)	2	0.7%	河畔林(遠景)	1	1.0%	排水口	6	1.0%	排水口	6	1.0%
12	排水溝	2	1.0%	ゴミ	2	0.7%	水路橋形(蛇行)	1	1.0%	周辺の土地利用(田んぼ)	5	0.9%	周辺の土地利用(田んぼ)	5	0.9%
13	大型商業施設	1	0.5%	井樋(コンクリート)	2	0.7%	排水溝	1	1.0%	橋梁	3	0.5%	橋梁	3	0.5%
14	周辺の土地利用(民家)	1	0.5%	水路橋形(蛇行)	1	0.4%	橋梁	1	1.0%	大型商業施設	3	0.5%	大型商業施設	3	0.5%
15	橋梁	1	0.5%	水路橋形(直線)	1	0.4%	大型商業施設	1	1.0%	全景	3	0.5%	全景	3	0.5%
16				河畔林(遠景)	1	0.4%				河畔林(遠景)	2	0.3%	河畔林(遠景)	2	0.3%
17				大型商業施設	1	0.4%				水路橋形(直線)	2	0.3%	水路橋形(直線)	2	0.3%
18				橋梁	1	0.4%				井樋(コンクリート)	2	0.3%	井樋(コンクリート)	2	0.3%
19										水路橋形(蛇行)	1	0.2%	水路橋形(蛇行)	1	0.2%
20										背景の山	0	0.0%	背景の山	0	0.0%
合計		201	100.0%	合計	275	100.0%	合計	104	100.0%	合計	580	100.0%	合計	580	100.0%

図1) 思い出に残っている風景の各世代の傾向



表2) 思い出に残っている風景に関する世代ごとのActivity

小学生	市役所	高齢者
Activity	Activity	Activity
泳ぎ	泳ぎ	泳ぎ
魚獲り	魚獲り	魚・貝獲り
遊び	水害	水害
行ったことがある	ヒシ採り	ヒシ採り
おそうじになった	水遊び	堀干し
ゴミ拾い	水汲み・野菜洗い	水遊び
鳥を見る	お祭り	子供時代に遊んだ
散歩	草を掻き分けて遊んだ	魚釣り
田んぼで遊んだ	子供時代に遊んだ	散歩
釣り	散歩	田植え
お土産とした	田んぼで遊んだ	虫捕り
かくで遊んだ	つくし採り	
行ったことがある	釣り	
	通学通勤路	
合計	合計	合計
85	74	32
100.0%	100.0%	100.0%

*クリークの関係について ①クリークに入るActivity ②クリークと関わりのあるActivity ③クリークと関わりのないActivity

43. The study about inhabitants' perception about creek scenery in Saga plains

Hironori HAYASHI

The Law for the Promotion of Nature Restoration and the landscape law were introduced recently and it has been getting important that the specific and environment in district should be preserved, therefore the proper way of environmental maintenance for the district has been searched, while it must also be important as the basic knowledge for the maintenance that we should understand the imaginal scenery in the inhabitants' memories.

In Saga Plains, the place of my study, the creeks—small narrow canals for farming—which form a specific scenery of the rural area have also maintained according to urbanization and farm land consolidation.

In doing proper maintenance here, we have to know about the inhabitants' images in their mind of the scenery.

This is the reason I've made researches into understanding their images in order to make the specific features clear.

In practice, I made a questionnaire survey among about 300 people who are from primary school children to the aged living in Saga city.

The analysis of the result of the survey shows what they think about their imaginal scenery and indicates what are the most important elements in their images about creeks.